

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会  
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

# あゆみ会報

編集 湘南あゆみ会  
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内  
TEL/FAX 0463-24-0420

2022年9月号 第181号

## 報告

### 8月サロンあゆみ

8月19日(金) ひらつか市民活動センターA会議室において進捗型心理勉強会第3回目と自由交流を行いました。参加者20名

今回は前回と少しやり方を変えて、挙手のあった人に取り組みと状況を話していただき、それに対するアドバイスを受ける。その他の方はそれを聞き、後半の自由交流の時に、個人的に相談したい人は井上さんに相談する、という形を取りました。

Aさん：天井に人が住んでいていつも自分を見ているという妄想がある⇒妄想は自分の現実を認めてほしい時に出るので、妄想を認めてかかわってあげる。

Bさん：自分の世界に閉じこもり独り言を言っている⇒独り言は自分の世界を楽しんでいたり、ストレスからの解放になるので止めないで、誰と話しているの?などと聞いてあげる。自分の内側を話しだすこともあるのでよく聞いて認めてあげる。

Cさん：電話をかけたり、カラオケに行くなど一人行動が出てきた。⇒指導、助言は避けて見守ってあげる。

#### 《Q&A》

・父性と母性のどちらが重要か  
⇒父性が強いと癒やしがなくなる。シングルマザーの家庭では父性が強くなってしまう。

・母親が仕事を持つことについて  
⇒子どもにとって話せる人、頼れる人が必要。  
頼ったり頼られたりとの関係が大事。

・親亡き後への不安が大きい  
⇒メンタル面のサポートができる人が必要。

## これからの予定

○10月13日(木)・14日(金)  
第14回みんなねっと全国大会(広島大会)  
テーマ：愛と自立を語ろう  
基調講演「地域において精神障害者と家族が安心して暮らせるために」  
特別講演「誰もが自分らしく暮らせる地域のために～みんなで考える地域精神保健のあり方」  
参加申し込みの詳細はホームページ([hirokaren.org/01](http://hirokaren.org/01))で公開しています。  
オンライン配信と対面形式のハイブリッド開催。  
問い合わせ先 広家連 TEL082-285-3837

○10月21日(金)・22日(土)  
平塚市福祉会館まつり  
みどり農園の新鮮野菜、東北支援昆布など販売。  
当事者の絵画作品展示。

○11月13日(日)  
じんかれん主催 第48回「県民の集い」  
会場：藤沢市民会館 小ホール  
テーマ：「精神疾患のある家族をケアする  
ヤングケアラーを考える」  
基調講演：澁谷智子氏  
映画上映：「ふたり～あなたという光」  
～～～詳細はチラシをご覧ください。～～～



## 障害者権利条約

### 初の日本審査を終えて

JD ホームページより

8月22日、23日に国連ジュネーブ本部で障害者権利委員による初の日本審査が行われました。日本からは100人以上の傍聴団が参加し、JD（日本障害者協議会）からも藤井代表はじめ傍聴団に参加しました。障害者権利条約の誕生から深く関わってきた藤井克徳JD代表の談話を発表します。

#### 代表談話

### 障害者権利条約 初の日本審査を終えて

2022年8月26日

認定NPO 法人日本障害者協議会

代表 藤井克徳

歴史的な会議や企画をふり返る時、その開催の前と後とで、期待やとらえ方が大きくズレることがある。今回の国連ジュネーブ本部での障害者権利委員による日本政府報告書に関する審査（以下、対日審査）はまさにその典型となった。JDF（日本障害フォーラム）や日弁連を中心とするNGO側は、パラレルレポート（政府報告書に対するNGO独自の見解）作成を中心に、数年越しで対日審査に備えてきた。そこに込めた思いはただ一つ。

「人権侵害に当たるいくつもの深刻な実態を好転させたい」に尽きる。

去る8月22日、23日の両日に開かれた対日審査は惨憺たるものだった。審査が始まった直後から期待感は一気に萎みだした。持ち直すことは一度もなかった。詰めかけた日本のNGO100人余の日本政府代表団への印象は、唾然、そして怒りの入り混じった衝撃以外のなにものでもなかった。ヤジも飛んだ。

日本政府（関連省庁から25人以上が出席）の見解や姿勢についての感想を簡潔に述べたい。



一点目は、障害者をめぐる実態に誠実に向き合っていないことである。例えば、権利委員からは隔離状態が続く精神科病院の実態を問い質しているのに、政府コントロール下にある検討会報告書の一文を読み上げ、政策方向は順調だと言わんばかりの答弁がくり返された。あげくの果ては、事実とは異なる言い回しや数値が登場する始末。

二点目は、障害者権利条約の全体像と本質を理解していないことである。権利委員から、権利条約の魂とも言える「他の者との平等を基礎として」に沿っての、障害の社会モデル・人権モデルや複合差別・交差差別、インクルーシブ政策への対応が求められたが、まともに回答できなかった。はぐらかしというよりは、それらの本当の意味を知らないことからくる急場しのぎに思えた。

三点目は、日本の障害者政策を改革しようとする気迫が感じられなかったことである。審査の形式は、権利委員と政府による「建設的対話」というものなのだが、そこにくり広げられたのは、「うまくいっている」もしくは言い訳の連発だった。

「建設的」でもなければ、「対話」でもなかった。国際障害者年（1981年）を改革の追い風にしようとした当時の障害関連官僚とはまるで違う。

以上述べた日本政府へのネガティブな感想だけが今回の対日審査のすべてかと言うと、決してそうではない。ポジティブな側面がいくつもあった。

まずあげたいのは、障害者権利委員(18人)の真摯で懸命な働きだった。パラレルレポートを丹念に読み込んでくれていた。的を射た質問が連なり、ねばり強い食い下がりもみられた。明らかに日本政府の不誠実さを見抜いていたのである。極めつけは、ヨナス・ラスカスさんと並んで日本審査担当のキム・ミヨンさんの権利委員会を代表しての最後のコメントだった。途中から涙声に変わる。

「こんなにも真剣なパラレルレポート、そして日本からの大勢の傍聴者の前で、日本政府のみなさんは恥ずかしくないのですか」、私たち日本の傍聴団にはそう聴こえた。おそらくは、傍聴者のすべてが涙したように思う。政府報告に落胆していた中で、「傍聴に来てよかった」と思わせてくれた瞬間だった。拍手は鳴りやまなかった。

ポジティブな側面のもう一つは、まもなく出される権利委員会による総括所見(日本政府への勧告)にますます期待が高まることである。日本政府の不誠実な姿勢の分、権利委員のエネルギーは総括所見の作成に向かうに違いない。期待しているように思う。

日本政府の対応への評価は、文字通りの「ジュネーブショック」だった。しかし、それに向かった日本のNGOのまとまりと努力は、未来に向けて掛け替えのないものを残してくれた。そして、障害者権利委員会及び一人ひとりの委員の国際正義を貫こうとする姿勢に、改めて称賛の拍手を送りたい。

やはり障害者権利条約はすばらしい。同時に、「権利条約に恥をかかせてはならない」の意を強くした対日審査であった。最後に、関心を持っていただいた多くの市民社会にお礼を述べるとともに、間もなく出される総括所見を最大限に生かすことを表明する。



## 投稿

### 秦野名水散歩・森林セラピーに参加して

皆さん、猛暑が続く中如何お過ごしでしょうか。家族会では、いつも大変お世話になっております。私は日頃も常に気を配り、約一週間を周期に起こる“不快で、難解なる種々出来事”の対応にところが暗雲低迷、しかしお陰様で、ここまで繋がっております。毎日毎日まあこんなものかと、睡眠や食事まあまあ、運動もそこそこできており、これでも平均的に体調は「良い」と思っておりました。ところが今回、表題の催しに参加の機会を得て、その「良い」という認識が間違っていたと新鮮に感じる事ができましたので、このことをお伝えしようと思います。

主催は、秦野市、会場は「秦野市の表丹沢野外活動センター・葛葉の泉コース」の沿道で、参加費は2,500円、準備は「良い」体調、歩きやすい服装とエプロンでした。活動は朝から盛り沢山で、幸い好天に恵まれ以下のように進みました。

① 9:30 当センターで集合し、葛葉の泉まで沿道にある草花木の説明を聞きながら散策。

※出発前に、アンケート形式で当日朝の体調を記入する。(体調、睡眠、気分、食事、ストレスなど、「大変良い」、「良い」、「普通」、「悪い」「大変悪い」まで5段階評価)

私は、「大変良い」ないし「良い」と記入しました。

② 葛葉の泉で水分補給をしてから、さらに上の水源の森林にて、目を瞑りところを落ち着けて、耳を澄まし、聞こえる音(蝉や鳥、沢水、風の梵、枝の音など)にところを委ねる。

③ その場のハンモックで、体全体を脱力させて横たわりゆらゆらと身を委ねる。

④ 堰堤のそばに降りて、竹筒の端に耳を当てもう一方で沢の底を、方々探り音を聴く。(さらさら、ぼこぼこなどと聞いたことがない、変化のあ



る響きの音が聞こえる。)

- ⑤ お昼になり、流れの辺に腰を下ろし、「里山キッチンセラピー弁当」をいただく。  
(里山の材料を厳選し調理。盛付けが里山の風景、色合いや匂い、人の温もりを感じさせる一品)
- ⑥ センターまで引返す。この間、沢蟹、捕獲されたヒルやハンミョウも見せていただいた。
- ⑦ お腹が落ち着いた処で、手ぬぐいの体験藍染。デザインや紋を作る方法の選択は、即興です。
- ⑧ 染め上げて、濯ぎ。乾かしている間、バタフライティやくろもじ茶を試飲します。
- ⑨ 15:00 皆で、ロープに吊るされた手ぬぐいの鑑賞をして、解散となります。皆の個性に驚き、我ながら上出来、密かに悦に入りました。

※この時、最初のアンケートの続きで、当催し参加後の同じ体調の質問に回答します。

ここで、私は朝の体調は「良い」ではなく、「悪い」だったのだと、明確に気が付いたのです。なぜなら、参加後の今が「良い」すなわち、より率直に緊張感が解けて、心地よくところが軽く感じられたからです。ですから、今が「良い」のなら朝は、本当は「悪い」かったのです。「悪い」ではない、「良い」のだと思おうとする癖がついていたようです。やせ我慢でしょうか。当に、過ごした時間が「良く」させたのでした。

無理は長く続きません。皆さんも、ご興味があれば一度参加されることをお勧めいたします。因みに、どや顔でくだんの手ぬぐいを家で自慢しましたら、散々でした。ご慈愛を。(M.H)



## 10月のサロンあゆみはお休みです!

10月21日(金)は平塚市福祉会館まつりと重なるためお休みとなります。

お間違えのないようにお願いします。

## 精神保健福祉ボランティアグループ

### こんぺいとうのお知らせ

9月10日(土)お茶会 中央公民館和室

9月17日(土)定例会 福祉会館第3会議室

9月24日(土)11:00~ サロン

ほっとステーション平塚(老松町2-19  
読売高野ビル5F) 参加費200円

10月8日(土)お茶会 福祉会館第3会議室

10月15日(土)定例会 福祉会館第3会議室

\*お茶会参加費100円

\*2022年度会費納入について

活動時にお支払いいただくか、または  
下記口座への振り込みをご利用ください。

年会費2400円・賛助会費1口1000円(何口でも可)  
手数料は別途ご負担ください。

横浜銀行平塚支店 店番641

普通口座 1844869

精神保健ボランティアグループこんぺいとう

石川ひろみ

## 原稿募集 !!

あゆみ会報への原稿をお寄せください。

日常の中で感じていること、最近のニュースの感想、旅の思い出、読書感想、お勧め料理のレシピなどなど、なんでも結構です。

楽しい紙面作りにご協力ください。